

般若寺跡

清水4・5丁目周辺「般若寺跡」について

「般若寺跡」について、大阪市旭区郷土資料室に
関係資料が展示されており、この資料によると「般若寺跡」は八幡大神宮御旅所（推定）とあり、掲示された説明文は次のとおりである。

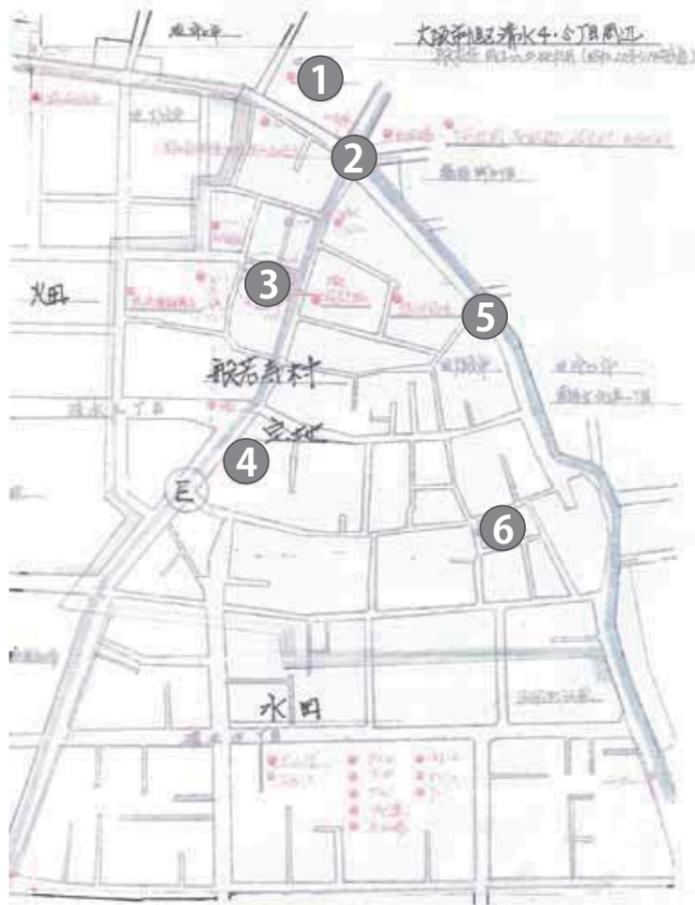
もとは般若寺村と呼ばれた清水4～5丁目あたりには、後醍醐天皇が京都の大徳寺の大徳寺国師を迎えて建てた般若寺という大きなお寺があったといわれている。

お寺の境内に六百巻の大般若経を埋めたことから般若寺と名付けられたと伝えられている。

（財）大阪市文化財協会



写真■昔の清水地区の農道を偲ばせる風景
（鶴見緑地・自然体験観察園より
平成20年（2008）10月）

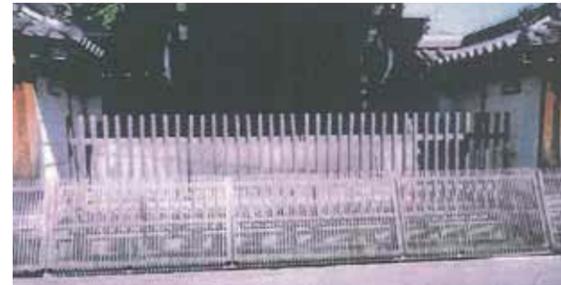


図■般若寺周辺の土地利用
（昭和20年（1945）頃）

「般若寺村」は江戸期より明治22年（1889）までの村名で、その後明治22年から大正14年（1925）の清水村の大字名である。村名ともなった般若寺について、貞和5年（1349）11月27日の大徳寺領庄園文章目録（大徳寺文章）に「摂津榎並般若寺寄進状 以下十参通」と寺領が大徳寺に寄進されており、ここに般若寺とい

う名が初めて見える。650年以上前の古い地名である。しかし、般若寺跡は未だに特定されていない。この特定には、遺跡や遺構、瓦や土器など人工遺物、自然遺物、木簡などの文字資料など、あらゆるモノの発見と今後の遺跡の発掘や古い資料の収集が課題である。

① 護念寺



② 両国橋 野崎街道と 剣街道の合流点



③ 般若寺跡（推定）



八幡大神宮 御旅所

④ 地藏様



清水5丁目

⑤ 摂河国境



⑥ 誓願寺



このような状況の中で一つの手掛かりとして整理したものが「般若寺周辺の土地利用」（昭和20年（1945）頃）である。

当時の地名を地図上に位置づけ、それらの土地が

人々にどのように利用されていたかを理解しようと試みた。これがすぐには般若寺跡につながらないが、少なくとも今から数十年前の村の様子である。そして現在の写真を添えた。